

科目名	特別講義B							教職	
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	千葉 雄二(専任)								
授業の概要	<b>キーワード：地域、統計、事例分析</b>								
	本講義は、地域の実態を日本や地域外の都道府県・市町村との定量的比較によって客観的かつ具体的に把握することを目的とする。講義は、国民経済計算、県民経済計算、景気指標や人口、商業、工業統計などの官公庁統計の解説と、これら統計の基礎的分析手法の理解を中心とする。両者を統合的に活用することで地域と他地域および国との関係を客観的かつ具体的に把握する知識が取得できる。また、統計のほか地域でのアンケートや主観的情報の分析方法も併せて講義し、地域の実態、課題をミクロ的に把握する方法も学ぶ。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済、産業、環境、政策など地域に関する統計の基礎知識と分析方法を身につける。</li> <li>2. 地域を総合的に把握する能力と地域の諸課題への対応を考察できる実践的応用力を身につける。</li> </ol>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の構成：地域の概観と地域課題を理解するための視点提示</li> <li>2. 県民・国民経済計算①：GDPの構成・基本概念の理解、鳥取県経済の特性理解</li> <li>3. 県民・国民経済計算②：地域間の生産、再分配および消費の理解</li> <li>4. 県民・国民経済計算③：地域格差調整の仕組み、県民経済フローの理解</li> <li>5. 県民・国民経済計算④：GDP統計の基礎的分析手法の理解と応用</li> <li>6. 景気指標①：多様な景気指標の見方と理解</li> <li>7. 景気指標②：相関係数・回帰分析を応用した景気指標の関係理解</li> <li>8. 景気指標③：統計と分析手法を応用した地域及び国の景気変動の理解</li> <li>9. 産業連関表①：産業連関表の理解と産業連関表に基づく鳥取県と日本の特性理解</li> <li>10. 産業連関表②：産業連関表の応用、地域事例に基づく経済効果計算の実際と課題</li> <li>11. 産業連関表③：産業連関表の応用、原子力発電の経済効果とリスクの計算方法</li> <li>12. 地域人口：出生、死亡、転出入、婚姻にみる地域性の理解</li> <li>13. 産業・製造業・雇用：地域産業・製造業の歴史的推移の理解、アンケート調査による地域雇用の定量分析</li> <li>14. 商業・サービス業：生活を支える産業の課題と革新、アンケート調査の応用</li> <li>15. 公的部門と地域：政府部門を通じた地域間再分配による生活、就業、産業への影響と地域の将来</li> <li>16. 定期試験</li> </ol>								
評価方法	授業毎に提出する質問・理解度・意見等の記述内容（30%）、期中1回程度のレポート（20%）、定期試験（50%）								
講義外での学習	配布資料の内容を復習・理解しておくこと。 講義で紹介した官公庁統計については、パソコン等で所在・内容を確認しておくこと。								
履修上の注意事項	※先修科目： 特になし。								
教材	<p>◆教科書： プリントを配布する。</p> <p>◆参考書： 講義の中で紹介する。</p>								